

「ゆりかごから墓場まで」

松田町立松田中学校 3年 松本 夢々

「税金」というと、私たちの暮らしを支えているもの、社会全体の安定に必要な不可欠なものと言われます。ではなぜそのようなことを言われているのでしょうか。また、よりよい制度にする方法はなにかあるのでしょうか。

税金は、道路や橋などのインフラ整備、学校や病院などの公共施設の建設、また年金や医療費助成、さらに教育教材の購入などに使われています。これらを私たち、一人ひとりや地域で行おうとすると費用がかかりすぎてしまうことが分かります。例えば、税金という制度をなくし、個人ですべてを負担するとなると、まず道路や橋のインフラの整備は行われないと考えました。インフラ整備などあまり必要でないと思う人もいないのではないでしょうか。ですがインフラ整備が行われられないと、もし地震がおこり地面のずれが生じて、直さないということになります。また橋が崩落する危険もあります。そうすると私たちは安全に暮らせなくなってしまいます。他にも税金がないと、教育費や医療費などの負担が大きすぎてしまうため、人々が平等に教育や医療を受けるのは難しいのではないでしょうか。このようなことから税金は私たちの暮らしをよりよくするために必要だということが分かります。ですが、この制度はいくつかの課題があるとされています。もっとよりよい制度にする方法はないのでしょうか。

「ゆりかごから墓場まで」という言葉を知っていますか。この言葉は第2次世界大戦後のイギリスのスローガンであり、人生の最初から最後まで国が国民を支えるという意味がこめられています。つまりこの制度は誰もが、よりよく安定した暮らしが手に入るのではないでしょうか。ですがこの制度は財政負担が大きすぎるため、国債が大きい日本には難しいと考える人もいないでしょうか。国民に保障する分、税の負担も大きくすれば問題がないと思います。さらに、近年の日本は貧富の差が拡大しています。貧富の差をなくすために、所得や資産に応じて適切な税の負担を見直すことで貧富の差をなくせるのではないでしょうか。また、さきほど言った制度の実現にも近づくのではないでしょうか。

このように税は私たちの暮らしを支えており、不可欠なものではありますが、さまざまな課題を背負っています。私たちの暮らしをよりよいものにするために、その課題を理解し、向き合っていくことが必要となってくるのではないでしょうか。